



海辺・川辺調査レポート

■ 名 前（ふりがな）	玉置 正和
■ グループ名	
■ 学校名	横浜隼人中学
■ 学 年	2年
■ 年 齢	14歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	玉置泰司（父親）に昔の話を聞きました。

■ レポートした場所	千葉県市川市北方近くの真間川
■ レポートの題名	真間川の今・昔・未来
■ 内 容	<p>私は父が生まれた家の近くにある川について調べました。川の名前は真間川といいます。今はメタンガスの匂いがして水がすごく汚く、水に住んでいる生き物もほとんどみられず、時々鯉の死体が浮いているくらいです。また、よく白いもやもやしたものまでたくさん流れています。どうやらトイレトペーパーのようです。この近くは下水道が整備されておらず、各家庭では水洗にしようと思えば自宅に浄化そうを作らないといけません。そのため浄化力も弱く、そのようなきたにもものも分解されずに川に流れ込んでいます。私は祖父母の家の近くにある、この川がきれいです。年に一度桜の季節だけは、川の堤防に植えられた桜の花がきれいですが、近寄ると川の臭いで幻滅します。</p> <p>でも、父が子どもころは、アメリカザリガニ、ドジョウ、ヒメタニシなどを綱ですくう事ができ、土手も自然の土で出来ていたのもので色々な野草や花が咲き、土手の草花にも様々なバッタや蝶などが集まっていたと聞き、とても驚きました。ただ当時は、水洗トイレではなく、バキュームカーがふん尿を集めており、トイレは臭かったそうです。つまり、各家庭のトイレが消臭された代わりに、川がくさくなってしまったようです。そう考えると、この川はみんなの生活を快適にした代わりに犠牲になったのだと思いました。また、この川の水は、東京湾に流れ込んでいるため、海の水も汚している事になります。だから一刻も速く、完全な下水道をつくり、汚水を浄化しなければならないと思います。水がより清潔になれば、異臭もなくなり、なにより大切な事は、昔のようにより多くの生き物が川に戻ってくる事です。ただ今こんな状態の川で本当</p>

にそのような事ができるのでしょうか。昔は、土手から水面まで降りることができ、浅い所では川の中に入る事もできたそうです。しかし、父が子どものころも川底は黒く、異臭がしており中に入る子どもはほとんどいなかったそうです。でも今は水面近くに広場がある所が数ヶ所ありますが、それ以外は急傾斜コンクリートの護岸でできているので水面付近に降りる事はできません。ただ昔は川の水面が大雨で上がり、一部では浜水になった事もあったそうですが、護岸改修により洪水が亡くなった事は評価できます。父の話では、護岸改修と同時に川にフタをして、その上を道路にしてしまう話もあったそうです。でも考えてみれば恐ろしい話です。それは、水が汚れても臭いはしませんが、逆に言うと、川の水がどんな状態になっているかみんなが気付かず、誰一人として川の水をきれいにしようという気も起きない事です。

今後も祖父母の家に行った時には、川の変化を期待しつつ、川を見に行こうと思います。

